

□議員名：岩本信子

1 学校給食について

論点	食材購入の実態の把握はできているのか。また食材配送の仕組みはできるのか。
回答	青果は学校から小野田中央青果に注文し、市内の小売店（10店）に配送を依頼して各学校納めている。代金は中央青果に支払っている。センターになると、各店の取引実績に見合った配送をお願いする。

論点	5500食の食材（野菜）の購入と地産地消はどうか。
回答	市内産の青果 5500食分の確保は難しいと聞いている。この状況は今も同じだ。特定の農家との契約栽培はすぐには難しいが、農林水産課との協力により契約栽培につなげたい。

論点	食品購入状況では、6割が市外業者である。このような状況を教育長は知っているのか。
回答	食材の発注は栄養教諭等がしている。質とコスト面で総合的に判断をしていると思う。市内産を増やして欲しいとお願いしている。

論点	献立や食材のこと等、現場の栄養士と話し合っているのか。
回答	供給する側のことを、栄養士や調理員に説明している。食材を揃える事は不可能だとは聞いていない。

論点	学校給食法10条で栄養教諭の専門的知識を活かした指導とあるが、食育推進員で代わりができるのかどうか。
回答	現在、過半数の学校に栄養教諭がいない。いない所は先生がしている。栄養教諭の仕事は学校における食育の体制をつくることであり、食育推進員に栄養教諭が指導し子どもに対して毎日指導する体制を考えている。

論点	学校給食センター設置は、現場職員が一丸となって取り組んでいるとの自信はあるのか。
----	--

回答	色々な考えの中で、今まで経験の無いことをしようとするので、不安があり自信を持ってできると皆さんが答えられてはない。一つ一つ具体的に詰めていく中で、理解が進んでいると思う。
----	---

論点	給食センターの給食は、今行っている給食より質や内容が良くなるのか、また自信をもっているのか。
回答	食の安全は今よりよくなる。食育も全ての学校で食育の体制作りに栄養教諭が関わる予定だ。現在行われている学校給食は理想的でない。理由は、食の安全が危うい。学校全体の食育の体制作りが過半数の学校で適切でない。親子方式の調理場は現状においても建築基準法上好ましくない状況だ。

論点	昨年の3月に給食センター建設は否決されている。その後センター以外の給食施設は検討されたのか。
回答	教育委員会は1センター方式を否定されたものではないと捉え、議会の理解を得られるよう見直してできるだけ早い時期に予算を提出する趣旨であったと受け止めている。